



◆ 第14期年次総会報告

- ・年次総会概要

◆ 第1回定例幹事会

◆ クラブ活動報告

- ・山遊会
- ・ビデオ・カメラクラブ
- ・グランドゴルフクラブ
- ・釣りクラブ

◆ 堀場OBベンチャー&ボランティア部会

- ・運営委員会開催
- ・鴨川を美しくする会主催「鴨川クリーンハイク」、「鴨川フェスタ2009」に参加
- ・美しい祇園祭をつくる会主催「祇園祭宵山ボランティア」に参加
- ・宮の森公園ごみ拾いボランティアについて
- ・新ボランティア部会メンバー紹介

◆ NPO法人京都シニアベンチャークラブ連合会

- ・活動状況

◆ OB会行事報告・案内

- ・「夏の懇親会」を開催
- ・レジャー例会 (カメラクラブ共催)
 - ▶ 秋のレジャー例会 東山紅葉狩り
- ・行事案内
 - ▶ 「春の懇親会」のご案内

◆ 会員寄稿文

- ・皆既日食と黄山の旅に参加して
…萩原孝一
- ・小さなペン立て (私の石物語①)
…福田弘秋

◆ OB会連絡

- ・第13期新入会員懇談会

◆ ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

◆ 編集後記



祇園蛭子祭り

1月の祇園蛭子祭りは「商売繁昌」を祈ります。「笹もってこい」で有名な大阪の今宮戎も、八坂神社の氏子が祇園のえべっさんをお祀りしたのが始まりとされ、その後、全国各地にえべっさんが広まってきました。

今経済界も大変な危機に見舞われています。私たちも会社の「商売繁昌」を祈り、OB会も微力ながら業績アップに繋がる活動をして行きましょう。

第14期年次総会

年次総会概要

平成21年10月30日（金）午後から本大会議室において、第14回堀場製作所OB会年次総会が開催されました。参加者は、総会51名、懇親会49名と全会員の約1/3の出席がありました。開催に先立ち、故市岡達郎さんへの黙祷を行いました。

第一部は、堀場社長から「会社の近況報告」



を詳しくお聞きしました。（6ページ抄録参照）

第二部で年次総会を開催、新入会者の紹介、古希お祝い金の贈呈（3ページ参照）定例審議を行いました。今回の最重要議案として、全員参加で「今後のOB会体制と活動について」のテーマで、全体を5グループに分けて討議して頂き「OB会諸活動協力者」（下記参照）が決



定されました。



同時に現在の活動の評価と今後への提案等を発表して頂きました。総会初のグループ討議の試みは、皆さんの意見が反映され今後の活動に良い結果が生み出されるものと大いに期待されます。その他会則の変更として、1. 入会年度



別代表者の選出 2. 年会費滞納者の取り扱い等が承認、可決されました。

第三部は、堀場最高顧問の「特別講演」があり、心の在り方等について含蓄のあるお話を拝聴しました。（5ページ抄録参照）尚、今回最高顧問は、開催の始めから列席頂き、総会も聞いて頂きました。

そして第四部の懇親会は、例年通り食堂にて、最高顧問、社長以下副社長他、多数の会社幹部の方々の出席を得て、大変盛り上りました。尚、今回参加された皆さんの感想等を随時

お寄せ頂ければ幸いです。また残念ながら出席頂けなかった方々も、会報、ホームページへの

ご意見、寄稿文等よろしく申し上げます。

お祝い金贈呈者(6名 敬称略)

下川 博司、伊藤 信夫、岸本 俊彦、青木 克己、
久保 弘子、横川 修二

OB会諸活動協力者(7名 敬称略)

嶋田 剛志、湯浅 一郎、船越 健、中村 十規人、
森山 晶成、小山 忠夫、永田 真寿夫

－ 1 4期に入会された新入会員のメッセージを紹介します－

加藤 順三さん

この度、格式ある堀場製作所OB会のメンバーに加えていただくことになり、誠に有難うございました。私が堀場製作所に入社以来、何かとご指導を賜り、育てて下さった諸先輩方のお仲間に加えていただいたことを大変光栄に感じております。新参者ゆえOB会のことはまだ良く判っておりませんが、会員皆様方と一緒に会を盛り上げていくことが出来ればと思っておりますので どうか宜しく願い申し上げます。

私は1968年入社以来、41年間勤めてま

いりました堀場製作所をこの9月で卒業しました。一度は隠居生活も考えましたが体力も気力も時間も充分過ぎるほど持て余しており、会社をお願いして嘱託再雇用社員として引続きびわこ工場勤務させていただくことになりました。景観の素晴らしい、空気のおいしい場所で仕事出来ることに心から感謝しております。当面はフルタイムで勤務しておりますので 近くにお越しの節は、是非びわこ工場にお立ち寄りいただき、声を掛けていただきますようお願いしております。

西田 裕一さん

1967年の3月入社以来、おもに営業業務、海外営業、営業管理そして輸出管理を担当し2009年3月に退社しました。勤務地は、京都、東京、大阪でした。小学生の時は、野球、柔道を楽しみ、中学、高校、大学では、テニスクラブで活動しました。入社以来、堀場サッカー部を作り、その後東京に転勤して、東京での野球部を作りました。京都に帰って海外部に配属されたときに堀場テニス部を、また海外部の野球チームも作りました。

その後、堀場釣りクラブ部に入会し、佐田釣クラブ部長の引退の後に釣クラブ部長を引継いで約10年部長を担当しました。現在も同クラブ部員です。(OBでも参加可能です)

今回OB会に入会し、早速OB会の釣りクラブを皆さんの協力により、発足できました。初の例会として、9月30日に4名で鯛・鯆の船釣りを行いました。会員は、現在7名です。その他の趣味として、ばら栽培を楽しんでいます。

京都ばら会の副会長を拝命し、「バラ職人」として営業中です。

福田 弘秋さん

東京支部に在籍している福田です。
私は昨年9月にHTSで定年を迎えHITへ転籍し1年を経過しましたが一身上の都合により先月で退職いたしました。

この1年間は東京支部運営のお手伝いをさせていただいております。

これからは好きなことをやりながら楽しい毎日を送ろうと思っておりますので
ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

丸山 博さん

堀場OB会への自己紹介を簡単ですが下記させていただきます。「私は昭和32年に入社し20年間勤務したのち退職させていただきました。以降、今日までの30年間は長い様で私にとっては大変短い年月であったと思います。

この度、縁あって堀場OB会に入会させて頂き、若い頃、苦楽を共にした懐かしい皆さんと再びお会い出来ます事を大変に嬉しく思います。とりあえずは、山遊会と釣クラブに参加し一緒に楽しみたいと考えています。

三笠 元さん

(社)日本環境技術協会での駐在勤務が5年経過しました。俗に言う単身赴任ですが、東京で就職した息子と二人で住んでいます。協会では、新たに立ち上げた「環境大気常時監視技術者試験制度」の運営や、環境省の中央環境審議会PM2.5測

定法委員会等々に参画しています。

また、ISO/TC146(大気の質)/SC1(排ガス)に日本のエキスパートとして参画しており、今年ドバイに行ってきました。当面は協会の仕事を中心に継続予定です。

村瀬 潤さん

堀場製作所に1972年3月21日に入社し、2003年12月21日に堀場テクノサービスに転籍していましたが、今年9月末を持って定年退職しております。OB会から入会のお誘いを受け、入会させて戴くことになりました。

隠居生活に憧れておりましたが、経済的には悠々自適にいたりません。もうしばらくHTSに嘱託として勤務いたします。

学生生活を離れ直ぐにホリバリアンになっております。隣近所との付き合いをこれから始めることとなりますが、社会人として偏っているのではないかと、心配しております。

諸先輩方からご指導を受けながら、会社人間から本当の意味での社会人へスムーズにデビューしたいと考えております。よろしく願いいたします。

湯浅 一郎さん

本年3月で定年退職し、4月より週4日勤務の嘱託社員としてHORの内部監査部門でお世話になっています。以前に比べ時間的に余裕のある毎日

過ごしています。

在籍のメリットを生かして会社とOB会の皆様との架け橋になれば幸いです。

今後ともよろしくお願い致します。

脇山 芳博さん

1973年3月入社。主にX線分析装置の開発(電気設計)を担当。最初の製品はSLFA(石油中イオウ分析装置)です。その後、製品安全設計、環境規制関連に足を入れ、法規制への対応(CEマーキング・輸出管理)、関連する堀場標準(HS)の策定、(社)日本電気計測器工業会の環境と安全担当委員会の立ち上げに従事。品質環境安全統括センターを最後に本年3月定年退職。36年間の長きに亘って堀場製作所と皆様方にお世話になりました。

退職後現在まで充電期間、スローライフを送っ

ていますが、毎日・毎週なにかすることが出てきます。趣味はこれといってありませんが、今は読書にはまっています。

1998年頃から6年間ほど主に単独登山で歩き回りましたが、やむなく中断していますので、体力回復後は登山に復帰する予定です。退職記念旅行はまだ行っていませんが、日本各地をドライブし、歩きまわりたいと思っています。

OB会行事への参加は(現時点で)まだですが、皆様とも一緒に第二の人生を愉しく有意義に過ごしたいと思っております。

久しぶりに皆さんの姿を見て、何年たってもこのような会は有り難い、一人ひとりに思い出があり是非このOB会は継続して欲しい。協力工場の主な企業の洛楽会は、堀場が創立2,3年後設立、当時の堀場に協力工場が組織化されることは困難で、当時日本電気化学の小林社長さんが、開発型の堀場は、良い外注が必要と、一流の協力工場を組織化してくれた。その後メインの会社は二代三代と続いていて、代々信頼関係を保っている。また青研会を組織していて、次期世代の勉強会をやってこれが大きな力になっている。当時他の企業も同様の協力会があったが、殆ど無くなっている。洛楽会に堀場の株も沢山持って貰い、逆に資金的、技術的なバックアップもした。

当時為替は360円固定レートで、昭和33年アメリカへ訪問時、ドルの割当が1日12ドルで45日間のみで、現地の費用は全部含めて1日12ドルでした。その頃堀場の社外役員で大沢商会の大沢さんは、戦前からアメリカとの貿易ではトップクラスで、ニコンとかキャノンそしてセイコーの等の商品は殆ど大沢商会が商っていた。また中央政権にも知り合いが多かった。敗戦後、初代のアメリカ大使にと頼まれたが、自分は商売人ゆえ断った人で、彼からドルを貸してもらった。また京都にいたアメリカ兵の小遣い稼ぎのヤミドルを500円で買った。

堀場無線研究所時代では、彼らはアメリカの軍用計器をばらし、それを販売してくれと行って来て、良く売れたものだ。当時のドル500円がニクソンショック時、300円になり、250円になり、どんどん下がったが最終80円になったが、給料も遅配せず、会社は存続出来た。逆に80円が120円の時無茶苦茶儲かったかいうと、あまり儲からない。人間というのは、1000円あれば、800円使い、10000円では8000円までは使う。また1000円に戻ると800円の消費をする。人間は時代に応じて、非常に融通性が高い。また人間の身体は、他の生物に比べて、一番耐性が高い。無酸素で9000Mのエベレストに登り、地下1000Mの三池炭鉱で石炭を掘っている。-1000Mから+9000Mまで無酸素で生活でき

る。どんな動物でも駄目だ。六神丸のじゃこう鹿は、2500M~3000Mの範囲でしか生きられない。しかしどんな賢い人でも病気ではしかたがない。昨年足の皿を割ったが治癒、自覚症状は無いが健診にて、ガンが三か所見つかった。細胞を取って早期発見早期治療で事なきを得た。声帯ガンになったときも、声を失わない様に手術した。私も男の平均寿命79歳を超え、6年が過ぎていて。これはいわゆるロスタイムみたいなもので、勝負をつける時である。ベンチャー等もやったが、最近80歳になってますます時間が惜しい。

面白いことが増えてくる。デカルト、プラトンの時代を考えても、全然結論が出ていないことに、心はどこにあるか。一元論としては、体の中に心がある、二元論は、体の中には無いという。結論が出ていない。よくかわいそうとか、つらいとき、心が痛いという。心臓の中にあるといっても心臓を切っても見つからない。頭にあるといっても脳を手術しても分からない。背後霊でもないようだ。もう少し生きて、心の所在を明確にしてくれるまで、死んではもったいない。

ベンチャーについては、いろいろ金を使って、大学も、銀行もやり現在600社ほどあるが、ビジネスになっているのは、数えるほどしかない。なぜアメリカはベンチャー企業がどんどん創業し発展するのになぜ日本ではだめか。1996年に新規性追求遺伝子が発見され、アングロサクソンと日本人との比較では、面白いことに、ドーパミンとかアドレナリンとかセルシン等神経伝達物質が出るがそれを受けてアクションを起こすがアングロサクソンは、ピッチャーがどん悪いボールを投げても取る。日本人はミットの中に入るものしか取らない、研究によると1/25しか飛びつかない。

これは狩猟と農耕民族の宿命か。さて、堀場の財産はノウハウで、お金や土地ではない。ぜひOB会の皆さんも堀場カレッジの教授になってほしい。それが堀場の一番大きな財産です。

それでは皆さんお元気で来年も再来年も会えることを楽しみにしています。(抄録)

皆さん今日は、近況報告としては、非常に厳しい状況下、常に危機の時の対処を考えてきたので、それなりの成果も出てきた。競争力の維持、会社の方針としての対応、ある時期、ウルトラクイックサプライヤーとして、一年を一カ月等、超短納企業を目指しユニットを変えて対応しようとしてきたが、最近では、着実さを主体に少し元に戻って、現在タイムワンハーフ、つまり全てを半分の時間で対応して行く地に足がついた努力、真のイノベーション企業として現在努力中である。

株価もピーク時5000円、低い時は1000円、最近では2000円前後に戻っている。イギリスで投資家説明(IR)を実施した。自動車、半導体、薬品等各業界個別の専門家に対して、世界的には少ないマルチ製品群を持つ堀場を地道に説明してきて、堀場を理解する投資銀行、証券アナリストが徐々に増えて来た。今一番の質問は、自動車関連で、堀場のビジネスを懸念する人が多い。これに対して、電気、燃料電池その他は2割程度で、燃焼関連事業はメインとして残る、ハイブリッド車もさらに精密なデータを必要としている。4年前に買収したシェンク社等と複合し、自動車産業に幅広く関連するビジネスを展開していることで理解を得た。また東京でもIR活動をした一週間後、イギリスで40億円の投資があり、きっちりとした経営方針、アプローチの説明が反映した。開発費は、連結ベースで60億円(10%)を一昨年から80億円から90億円に上げた。堀場グループの原点として積極的な投資を続ける。H. ISMでも積極的な開発投資を表明、夏の分析展で18機種の新製品を、医学関連で2機種投入、競合との位置づけを優位にする。世界で5100人、その中海外が2100人となり、士気という面では絶対負けない。18年前朽木にファンハウス設立以来、今春3倍に増築。施設のクオリティーには十分配慮。海外の幹部とも一体感を醸し出す設備とした。堀場と共感する人の輪が増えている。技術の伝承のため堀場カレッジを設定と現在280講座をサポートしている。

ABX社、今は堀場メディカル社、シェンク社、今

は堀場オートモーティブテストシステム社、堀場ジョバンイボンも堀場というブランドになり、本気でロイヤルティーを感じ、誇りを持っている。尚、今後は業務の応用問題を解ける幹部の養成が次のチャレンジとなる。

今春びわこ工場を建設、第1期では、今5か所の堀場倉庫を集約、在庫の現物を目で見て削減する。そして旧シェンク社の大型システムの製造工場とした。販社に対しては、人は勿論、物に対して販社へのサポートを説明した。現況は、自動車と半導体はかなり厳しい。連結ベースで4割近い売り上げ減も、赤字にはなっていない。他方医学用が貢献しだした。その結果的最終ベースで黒字をキープ出来た。また、営業部隊を地域別への切替え、若手へのシフト等、活性化を図った。過去修羅場を潜ってきた人の経験を、堀場カレッジを含めて、若手を積極的に抜擢、責任者につけて、体験をさせる。現在の複雑系業務をマネージして行くための情報システム投資として、2005年からSAPを導入した。徐々に外国子会社ともリンクし、堀場グループ イズ ワンカンパニー化を図って行く。

日製産業時代、10年間二重投資となったが、それが独自の部隊育成となり、提携解消後の期に成績が急上昇した。フランス方のジョバンイボンに関連して、ナポレオンがスタートというエコールポリティックの中に企業誘致の記者会見は皆さんが堀場をすごく勉強している。担当大臣との会見も熱心で、15分のところ小一時間にもなった。来年度は今年よりはいい成績を収めたいと思う。

一方、自動車、あるサイエンス、工業機器の一部は、むしろ今年より厳しいことを予想。4つのセグメントを中心にバランスよく強化することにより、安定的な経営を図っていきたい。

OBの皆さんもぜひ、技術の伝承として堀場カレッジに枯れた技術、ノウハウを提供し、次の時代を担うホリバリアンをサポートしていただきたい。(抄録)

14期第1回定例幹事会

平成21年11月13日（金）OB会室にて、今期第1回目の幹事会が開催されました。

出席者は、小谷昌男、山本広太郎、梶並強平、酒井俊英、田中光子、川越幹、谷口義晴（東京支部）、及び先期で退任の萩原孝一氏の計8人で、同退任の横川修二氏は欠席されました。

議事内容は、まず第14期年次総会の評価と反省として、年次総会で承認された今期の事業計画、収支予算、会則変更を確認し、実行に移すことになりました。

今回の特筆事項は、総会にて開催された出席会員参加のグループ懇談会で、今後のOB会の諸活動計画に対して、幹事会協力要員として推薦されましたOB会活動協力者として、嶋田剛志、湯浅一郎、船越健、中村十規人、森山晶成、小山忠夫、永田真寿夫の各氏で、これらの方々と共に諸活動を強力に推進出来る体制になりました。

第14期の役員人事として、審議の結果、代表幹事：川越 幹、副代表幹事：小谷昌男、山本広太郎、会計幹事：田中光子、幹事：梶並強平、酒井俊英、東京支部：福田弘秋（副：谷口義晴）に決定致しました。尚、退任されました萩原孝一氏及び横川修一氏に対して、その労を全員でねぎらいました。

第14期の運営方針は、会員の活動促進、会員の社会への貢献、ボランティア活動は、今後OB

会として相応しいもの、可能なものを幅広く検討、参加して行くことになりました。

教養・レジャー例会については、東京と京都の間で行う等で合同例会も検討することになりました。尚、具体的には、懇親会・教養・レジャー部会、旅行等、ベンチャー・ボランティア活動等、昨年度に準じ、第14期年間行事予定表を作成しホームページで公開しますので、会員の皆さんは、これにより参加予定を立てて頂き、多数参加してください。

（活動協力者にも促進に協力願います）

会員名簿の公開については、総会でのグループ討議での要求事項として、今回フルモデルチェンジしたホームページ上で会員氏名のみの公開を即実施しました。

（会員のページ → 会員の紹介 → [PDF堀場製作所OB会会員一覧クリック](#)）

その他、年会費の取り扱いについては、今回の会則変更の適用として二期連続滞納者は退会されるのかどうかを確認し、対処することになりました。

また、入会時期に対する年会費の徴収方法は、入会半年毎の管理とし、9/21～3/20までの入会者は、全額2000円徴収、3/21～9/20までの入会者は、0円とすることを正式に適用することとしました。

東京支部例会

平成21年12月4日（金）午後から支店TSOエクセレントルームにて第14期第1回の東京支部例会を開催しました。出席者は、寺西英三、草鹿悌二、土屋富夫、玉置健三、谷口義晴、大道寺秀弘、龍重法、横井弘秋、海野興一郎の計9人でした。

議題は今期の主要行事として、6/11～6/12一泊懇親会（ゴルフ付）案、・アクワワールドの他マリンタワーも実行することを検討しました。

4月の定例会にて正式決定するため、2月ごろには参加者を確認することになりました。

また今年の分析展でのホリとの懇親会は、来年も

開催することを要望し、年次計画に入れることになりました。これも正式定例会として、定例会を年間5回とすることも検討しています。

また谷口氏出席の本社での第一回幹事会(11/13)の報告があり、東京支部のOB会員は、自宅からの交通費が非常に高く、定例会の出席が難しいので、往復交通費の半額分をOB会予算から補助する要望は、本社での第一回幹事会で承認されました。尚、今期の新規入会候補者についても検討しました。幹事会終了後、会食を持ち懇親を深めました。

山遊会

—第11回例会—

- ・実施日：平成21年9月26日（土）・晴れ
- ・行先：蛇谷ヶ峰（901.7m）
- ・参加者：池田 俊明、下川 和子、萩原 孝一、
高橋 義治、下川 博司、橋口 純男、
丸山 博

京都バス出町柳駅午前7時45分発に乗車。終点の朽木学校前に定刻を10分程遅れて9時12分到着。9時20分発のシャトルバスに乗り換えグリーンパーク思い出の森へ。ここで滋賀県組の2名と合流して、9時35分吊り橋を渡っていきものふれあいの里へ向かう。

ここで登山ルート of 状況を聴取し、計画していた往路と復路を入れ替えかつら谷のルートを登りに使うことにして、9時50分過ぎ登山開始。谷沿いの径を右へ右へと取るが、標高300m～400mの間のアップダウンを繰り返すばかりで一向に高度が稼げない。10時50分かつら谷と称する地点に着く。少し開けた谷筋に大きな桂の木が数本あり、滝もあって小休止とする。

更に谷を詰め標高650m付近で尾根径にでた。標高700mの標識があり水分補給の小休止、時計は早11時30分である。尾根筋は爽やかな風があり気持ちよく高度を上げ標高820mの展望台へ、ここは帰りのルートの分岐点となっている。程なくしてスキー場から来る稜線の径と頂上直下で合

流。12時10分ようやく山頂に到着した。山頂ではすでに数組の団体で賑わっていた。早々に記念撮影をして昼食休憩とする。食事中に先客の殆どは下山してしまい、静かになった山頂で360°の展望に名残を惜しみつつ12時50分下山することとした。展望台まで引き返し道を右側にする。尾根筋の荒れて段差が高くなった階段の道を一気に降り、標高557mの地点で倒木をベンチ代わりに小休止、ここまで僅か35分。ここでも道が2つに分かれており、われわれは左の尾根径に行く。標高360m地点で尾根径が終り林道に出た、時間は14時20分。林道をいきものふれあいの里まで



戻り、再び吊り橋を渡って14時40分グリーンパーク思い出の森に帰ってきた。下山後はてんくう温泉で汗を流し生ビールで乾杯、心身共にリフレッシュして16時15分発のシャトルバスで朽木学校前へ。ここでJR安曇川駅組と京都バス出町柳駅組に分かれ帰路に着いた。

—第12回例会—

- ・実施日：平成21年10月23日（金）・快晴
- ・行先：愛宕山（924m）
- ・参加者：池田 俊明、下川 和子、萩原 孝一、
高橋 義治、下川 博司、丸山 博、

倉原 政治

京都駅発・四条河原町発の京都バスで終点の清滝に9時に落ち合う。金曜日とあって登山者は僅か。保育園の年長組10名ほどが、表参道を登るとかでバスは終始賑やかだった。9時10分出発。表参道を左手に見ながら清滝川の右岸に行く。京都

一周トレイルコースと分かれ、程なくして大杉谷コースの登り口に来た。いよいよ登山開始。紅葉し始めた山並みを愛でながら10時丁度に第1ベンチと朱記されたところで小休止。標高400m辺りで右に反れ、ザックを置き空身で急坂をトラバースして「ひぐらしの滝」に向かう。記念撮影を済ませ元の場所に戻る。11時第3ベンチで一息入れた後、杉林のジグザグ道を行く。杉林を抜けたところで月輪寺のコースと合流し、愛宕神社手前の少し開けて場所で小休止。秋晴れにはめずらしく黄砂にかすんだ市内を展望する。

ここから一般にはなじみが薄い愛宕山の三角点を目指す。12時10分標高890mの山頂に到着。恒例の記念撮影ののち昼食休憩。松の実を啄ばむ数羽のしじゅうからがこころを和ませてくれる。12時45分下山。頂上直下で昔から刀剣用として名高い愛宕山砥石の残欠を漁り、愛宕神社本殿へ。一人の参詣者もなく、静まり返った本殿をゆっくり巡り、参拝し



て13時30分神社を後にした。参道を水尾分かれまで下り、更に七合目の手前で道を右にする。14時10分ここですこし足を休ませ、保津峡に向けて尾根筋を下る。途中14時50分米買い道との出合いである長坂峠を経て15時45分車道に降り立ち、今回の行程を終えた。JR保津峡駅発15時56分に乗車して帰路についた。

ビデオ・カメラクラブ

—第3回例会—

平成21年11月26日(木)OB会秋のレジャー例会「東山方面の紅葉狩り」(詳細は別途例会記事参照)に写真・ビデオクラブも同道、撮影会を行いました。暖かく、絶好の写真日和でした。紅葉は、散り始めというところでしたが、それでもまだまだ紅葉の色は、燃えるような色で、撮りがいのある一日でした。

ホームページで会員投稿の写真を紹介しています



グランドゴルフクラブ

—第12回例会—

- ・実施日 平成21年11月29日(日)
- ・場 所 宮の森公園 (榎堀場製作所裏)
- ・参加者 4名 (小谷、梶並、萩原、川越)

11月後半としては、大変暖かく、気持ちの良い

ゴルフ日和に、前回雨で延期になった回もありましたが、計画での第12回目の例会を開催しました。

当日の出席者は、4人と少し寂しい限りでしたが、同公園に若いお母さんたちと遊びに来ていた子供たちが、私たちのグランドゴルフに大変興味

を持ち、元気な子供たちと一緒にコースを回り、大変楽しい例会になりました。

そして熱心な子供たちの要望に応え、グランドゴルフの基礎を教え、体験もさせてあげました。ここは公園であり、お互いに譲り合って遊ぶ場所なので、お母さんたちからも感謝の言葉もあり、私たちグランドゴルフ部の印象を大変良くしたものと思っています。

公園周りの清掃ボランティアについては、ゲーム前に回りましたが、最近では大変きれいに保たれていて、汚れているとい所はありませんでした。しかし油断は禁物で、次回も点検、清掃します。現在、滋賀県の本格的な、コースで例会を行う計画を立てていますが、一定の人数が

必要ですので、是非とも多数ご参加いただき本格的なゴルフ気分を満喫しようじゃありませんか。



—第13回例会—

- ・実施日 平成21年12月18日(金)
- ・場 所 矢橋帰帆島グランドゴルフ場
(滋賀県草津市)
- ・参加者 小谷、梶並、萩原、川越、西尾、
永瀬、宮本、山本

12月18日(金)、厳しい寒さの中、グランドゴルフクラブの例会が8名の参加により開催されました。今回はいつもの宮の森公園ではなく、滋賀県草津の矢橋帰帆島公園内にあるグランドゴルフ場で開催しました。

矢橋帰帆島グランドゴルフ場は本格的な芝のコースで球足が速く距離感が掴めず宮の森公園と調子が違うため戸惑いを感じながらも32ホール回り、楽しい時間を過ごしました。

矢橋帰帆島公園のグランドゴルフ場は4コース、32ホールと変化に富んだ本格的なコースで週末は月例会などで混んでいますが、平日はさ

ほど待ち時間もなく低額で利用する事が出来ます。

今後、例会を定期的にこの場所での開催を予定しています。

その折は、メンバー以外の人にも声をかけさせていただきますのでご参加下さい。



釣りクラブ

新しく発足しました堀場OB会釣りクラブとして、平成21年9月30日(水)鯛・鯰釣りに行ってきました。今期初めて発足した堀場OB会は、現在、会員数7名の小さなクラブです。発足と同時に、初めてのクラブ行事として、鯛・鯰の船釣りに行いました。

参加者は、池田、下川、丸山の3氏及び西田の

4名で、平均年齢も、70歳に近いが元気な方ばかりです。

日程の選択が自由に決められるため、平日でもサービスの良い釣船を選択できるのが、OBクラブの良いところで、今回の日程を選んでいきます。

当日の天候は、天気予報通り、雨のち曇りで、

12時ぐらいまで雨が降っていましたが、その後は曇りで温度も上がらず、釣りには、適した条件でした。朝7時20分に 京都縦貫高速の入り口手前のコンビニに、車2台で集合し、丹波インターを降りて、国道27号線を北上し、綾部の高橋釣具店で仕掛け等を購入し、9時30分に東舞鶴市役所横の港に到着した。

港には、すでに今回の釣りの世話になる瑞祥の船長の田中さんが、待っていてくれており、釣道具等を船に積み込み、釣り座を決め、10時出船した。この船「瑞祥」は、トイレ、キャビン付の中型遊魚船で、竿受等、釣りに必要なものは、完備されており快適である。しかも、船長は、親切で、顧客第一の信条で、ほとんど休みなしで、営業をしているひとで、私と同じ高校の同窓生である。

波は、天気予報通り、午前は、1.5m、午後は、1mで 初心者には、釣りにくい状態であった。池田さんと丸山さんは、このような大仕掛の船の釣りは、経験的に少ないようで、特に今回の釣りに関しては、釣りにくかったようです。

釣果は、全体で40cm及び34cm

長の鯛が2枚、50cm程度のシイラが3枚、32cmから25cmの鯿が20枚、20cm程度の血鯛、レンコ鯛が、14枚、25cm程度のウマズラハゲが、8枚程度でした。

今回は、残念ながら、今回の釣りの仕掛け（ハリスが長い、針が多い）に慣れていないために、お祭りが多く、釣果が良くなかったですが、楽しく釣ることができました。18時50分の納竿し、20時に帰港、23時前に自宅に到着しました。久しぶりに疲れました。



堀場OBベンチャー & ボランティア部会

ー運営委員会を開催ー

12月4日に14期第1回の運営委員会を開催、本年度の活動等について検討しました。昨年度に引続き「鴨川を美しくする会」主催の鴨川関連のボランティア活動に参加、「美しい祇園祭をつくる会」主催の青山ボランティア活動については依頼を受けた段階で検討、また、宮の森公園でのグランドゴルフ例会の時に堀場製作所周辺のゴミ拾いも継続して実施します。

新規の活動として、ものづくり殿堂館での小学生を対象とした企業主催の学習の中で、堀場製作所担当学習についてOBメンバーがお手伝いすることになり、1月～2月にかけて4回、延12名のOBが参加します。

従来、活動は特定の人に集中していたが、今後は協力者の力も借りて多くの方に参加いただく方向で検討する事にしました。

ー鴨川を美しくする会主催「鴨川合同クリーンハイク」に参加ー

平成21年10月18日(日)午前、第16回鴨川合同クリーンハイクに参加しました。

この行事は、鴨川を美しくする会が主催し、挨拶には京都市の細見吉朗副市長が来られるなど、

市からも重要視されている行事です。今回は、OB会から池田、小谷、周田、永瀬、山本、川越の計6人が参加しました、ボランティアの清掃作業エリアは、丸太町橋から三条大橋までの鴨川沿い



す。

中には、ユニフォームは良いねとか、そのユニフォームのロゴはいくらかかったか等の質問を受ける等、大成功でした。今回は、6名でもこの様な大きな印象を与えましたが、次回からさらに多数の参加を得て、インパクトのあるボランティア活動に致したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

で、多数の団体と共にゴミ拾いを行いました。鴨川は良く管理されている川で、ちょっと見では、美しい様でも改めて見ると、やはり毎回何らかのゴミが落ちています。特にタバコのポイ捨てが多かった様です。

トピックスとしては、今回初めて新調の堀場製作所OB会ロゴ入りのベストを全員着用して、ボランティア作業に当たりました。これは他の参加者にも大変目につき、ホリバのPRが大いに出来たと思っていま



—鴨川を美しくする会主催「鴨川クリーンハイク」に参加—

平成21年11月8日(日)午前10時から11時30分頃まで、今年最後の鴨川クリーンハイクに参加しました。鴨川を美しくする会が主催し、今回、堀場OB会から川越、梶並、小谷周田、永瀬、山本、酒井の計7人が参加しました。清掃作業エリアは、丸太町橋から北大路橋までの鴨川沿い、約3Kmで、東西に2分して北上しながら、ゴミ拾いを行いました。

今回の地域は良く整備されて、ゲートボール専用のグラウンドや、子供達のサッカー練習場など、多くの人が集まって楽しめるようになってきています。ゴミを拾うと言っても見つけるのはそれなりに注意力が必要でした。

しかしながら美しい様でも注意して見ていると、やはり、タバコのポイ捨てや、空き缶、ペットボトル、コンビニ弁当の空きパック等が見つかりました。前の週の木枯

らし1番が吹いたにしては今週は暖かく、この日も暑いと思う程、晴天でクリーンハイク日和でした。参加者一同、記念写真を撮って、清々しい気持ちで、このボランティア活動を楽しむことが出来ました。



－「River Side 鴨川フェスタ2009」にボランティア参加－

10月10日から12月20日まで、京都の魅力を世界に発信を目的に「きょうと知恵博」が開催されており、この事業の一環として「River Side 鴨川フェスタ2009」が10月24日、25日に鴨川（右岸河川敷）の御池大橋～四条大橋間で開催され、この事業の協力団体「鴨川を美しくする会」の要請によりボランティア（会場の安全管理）に参加しました。（24日は小谷昌男さんと山本が、25日は川越 幹さんと周田光男さんが参加）

フェスタのコンセプト・事業内容は、文化（伝統産業の紹介、実演・体験、舞妓さんの舞の披露等）、環境（環境等の啓発・PR）、にぎわい（京都の名産品販売等）で京都を訪れる観光客に京都の良さを知っていただく特設ステージでは、京都府知事、市長の挨拶をはじめ、舞妓さんの舞の披露、舞妓さんとの記念撮

影、大道芸などが行われ、メインイベントは、人気が高い「新撰組リアン」が登場、ファンが多く集まり、会場は非常に盛り上りました。ご協力いただいた皆様ご苦労さまでした。



－「美しい祇園祭をつくる会」主催宵山ボランティアに参加－

世界に誇る祇園祭の宵山で発生するゴミの量は年々増加、鉾町周辺、歩行者天国の道路に散乱、この散乱ゴミを削減するために平成19年に「美しい祇園祭をつくる会」が設立されボランティアによるゴミの分別収集がスタートしました

この活動に堀場製作所が協賛、この関係から堀場OB会に活動参加の要望があり、ボランティア部会で検討の結果、活動に参加することになり、7月14日～17日の3日間、延15名のボランティア部会メンバーが参加しました。

歩行者天国の始まる午後6時に四条烏丸の本部

「のりそな銀行」前に集合、本部前に分別箱（カン、ペットボトル、その他）を設置、分別収集を始める。

大勢の人がコンチキチンと鳴り響く祇園囃子に誘われて駒形提灯の明かりが灯る山鉾見物に集まってこれら人通りも多くなってきた。

分別箱の設置された烏丸四条は宵山に来ている殆どの人が通る場所で、ゴミも見ると増え、分別箱もすぐに満杯になりごみ袋の入れ替えに忙しい。

鉾町の新町通り、室町通りは出店が多く、多く



の人が集まるためゴミが非常に多い。分別箱が置かれているが、周辺にボランティアが居ない分別箱周辺は溢れたゴミが散乱し無残な状態になってい



た。ボランティアがゴミ拾いをするも追いつかない。銚町周辺のゴミ収集は、「会」のテリトリーで無いため分別箱周辺にボランティアが対応していない。

通行人の分別収集意識を高く感じた。ご苦労さんと声をかける人も多く、清々しい気分になる。銚町全体の収集分別には仕組みとボランティア活動の拡大が必要であるが、堀場OB会もより多く

の会員参加によりこの活動を盛り上げて行きたいと思う。

最後にボランティア活動に参加協力頂いた皆様



ご苦労様でした。夜とはいえ大変暑苦しい季節であり活動も大変だったと思います。

有難う御座いました。参加者の善意に感謝します。

◆参加者

- ・14日：梶並、永田、澤田、池田、山本
- ・15日：川越、小谷（昌）、船越、東、林
- ・16日：周田、萩原、宮崎、小山、酒井

一宮の森公園ごみ拾いボランティアについて

グランドゴルフの例会も第13回となりましたが、本社の裏の宮の森公園で開催する時は、スタート直前30分は、会社の周りとう宮の森公園を巡回し、缶コーヒーやポリ袋等のごみを拾っています。最初のころよりも一般のマナーが向上しているのか、季節性なのかは分かりませんが、近頃は、ゴミのポイステやや少なくなってきていま

す。OB会としても、鴨川や祇園祭とゴミ拾いのボランティアにかかわってきましたが、お陰様でゴミを拾うことに対する抵抗感がなくなりつつあります。まだまだごく狭い範囲に限られていますが、とにかく実行することで、社会へ貢献に寄与することを続けてゆきたいと思います。

一新ボランティア部会メンバー・ボランティア協力者紹介

昨年秋の総会案内で、ボランティア部会加入及び、ボランティア協力者登録のアンケートをお願いし、下記の方から「部会加入」、「加入はしな

いが都合がつけば活動に協力すると」の回答をいただきました。

◆部会加入者（敬称略）

川越 幹、小谷 昌男、梶並 強平、酒井 俊英、周田 光男、萩原 孝一、池田 俊明、宮崎 育雄、秋山 重之、森山 晶成、山本広太郎（11名）

◆協力者（敬称略）

勢藤源史郎、源田富美雄、石黒 英憲、永瀬 禎一、小谷 晴夫、永田真寿夫、宮本美津子、船越 健、中根 正見（9名）

NPO法人 京都シニアベンチャークラブ連合会

ー活動状況ー

NPO法人京都シニアベンチャークラブ連合会（KSVU）では国の委託事業であります中小企業を支援する「新現役チャレンジ事業」に2年前より取り組んでいますが、昨年は受身ではなく積極的な取り組みとして、中小企業が抱えるテーマに絞り込み課題解決型セミナー活動を進めています。

昨年は、省エネ、教育訓練、知財支援、個人情報（Pマーク取得）のテーマで中小企業に働きかけ支援活動の拡大を進めてきました。

このテーマの中で、省エネは、工場での省電力（無駄な電力削減）に取組み大きな成果を上げ支援企業から大きな評価を得ています。

先日、京都府地球温暖化防止活動推進センター主催による「きょうとECO-1（エコワン）グランプリ

2009 決勝大会」が開催され、予選を通過し決勝大会に出場したKSVUが特別賞を受賞しました。

昨年末にKSVUの企業支援活動にNHKが注目し、省エネ取組取材の申し入れがあり、工場での省電力計測の風景、省エネ研究会メンバーのミーティング風景の撮影が行われ特集として放映されました。

新現役チャレンジ事業は全国で推進されていますが、特に京都の活動実績は高く注目されています。

掘場OBのOB人材登録者は少なく、活動実績はKSVU加盟クラブの中でも残念ながら低く、支援活動に参画できる若手OBのOB人材登録を是非、お願いしたいと思います。

OB 会 行事報告・案内

行事報告

ー夏の懇親会を開催ー

平成21年8月2日（日）午後6時から、すっかり定番になった「がんこ高瀬川二条店」において開催されました。今回は、実参加者ベースで36名（申込ベース39名）と今までに無い多数の参加があり、大いに沸きあがり、連日の猛暑を吹き飛ばす勢いの宴会となりました。

冒頭、小谷副代表より、今年から始まった鴨川を美しくする会や祇園祭りのボランティア活動等への参加のお礼と今後の協力の要請があり、引き続き川越代表幹事から日頃の全般的な活動状況と参加協力のお礼のあと乾杯があり、宴会がスタートしました。

会社からは山下副管理本部長から、いつもの様に会社の現状のお話として、100年に一度という大変厳しい環境の中で、文字どうりワンカンパニーとして、一丸となった厳しい経営管理が推進されていることをお聞きし、OB会と

しても今後の活動のさらなる効率化の必要性として受け止めました。

今回は、新期入会者の宴会参加者として石黒英憲、島田剛志、湯浅一郎、西田裕一、森山晶成、丸山博の各氏計6名の参加があり、一言ずつ自己紹介をして頂きました。新旧の出会いで、懐かしく、また若返った雰囲気の中で、冒頭に触れた様に、大変盛会でお開きの時間もオーバーする次第でした。

本宴会幹事担当の山本副代表幹事の選択により、毎回工夫された料理のメニューも皆さんに飽きの来ない宴会となっています。

尚、大変残念ながら、今回の出席予定の3名の方が事前の連絡無く欠席されましたが、すでにキャンセル不可で大変もったいないことになりました。今後ともお互い確実な連絡をして、ムダを省きたいと思いますので、ご協力ください。

次回は、来春の懇親会となりますが、さらに多数の参加をお願い致します。



ーレジャー例会 東山紅葉狩りー (ビデオ・カメラクラブ共催)

平成21年11月26日(木)暖かく、絶好の
 天気恵まれ、東山方面の紅葉観賞ハイクを実施
 しました。一行8人(後に9人)は、京都駅9:
 30に集合、折からの観光日和で、ウイークデー
 にも拘わらず、満員の市バ
 スにて「永観堂」に直行、
 お堂や回廊の素晴らしい紅
 葉を満喫し、またご本尊の
 「みかえり阿弥陀」の穏や
 かな微笑みに慈悲を頂きました。

次に哲学の道の出発点に
 ある若王子神社にて、しば
 し休憩、知遇である同神社
 の宮司様と話し、またカメ
 ラのシャッターをお願いし
 て記念写真を撮りました。

神社を後にして、枝垂れ
 る様な紅葉が水に反映する

疎水べりをしばし散策したところで、今回、秋の
 特別公開期間中の「霊鑑寺」を拝観しました。同
 寺は、尼門跡寺院で、池泉観賞式庭園は、尼寺ら
 しく全体に穏やかな、優しい雰囲気醸し出さ



れ、また樹木の種類が大変多彩な庭でした。

ここままで丁度昼となり、西尾さんとも合流し、予約していた「喜さ起」で湯豆腐料理に舌鼓を打ち、折から昼の満席で料理を少しく待たされたお陰で、かえってゆっくりと出来、疲れが取れましたと前向きに報告しておきましょう。

午後からは、疏水に分かれを告げ、西方に見える小高い丘の吉田山に向かって白川を渡り、「真如堂」に行きました。紅葉観賞としては、ここが大変美しく印象的でした。同寺は、正確には「真正極楽寺」といい一行全員が極楽に行けるようにと祈りながら、少なからず紅葉の写真を撮ったあと、隣の「黒谷」に移動しました。ここは金戒光

明寺と言い、新撰組発祥地で、京都守護職の合津藩松平容保（カタモリ）でNHKのドラマでも有名ですね。

以上今回の目的地5か所を予定通り巡ることができ、こころから秋の風情を楽しんだ次第でした。今回参加出来なかった方々も、次回からは、参加出来るチャンスを逃さず、多数参加されます様、お薦めします。

参加者（敬称略）

川越、小谷、周田、田中、長瀬、西尾、東、矢野、山本

行事案内

一春の懇親会のご案内一

14期春の懇親会を既にご案内のように下記内容で開催します。開催日時をお間違いないよう再確認をお願い致します。

- ・開催日時：平成22年3月20日（土）
正午～

- ・開催場所：がんこ高瀬川二条苑
木屋町二条下がる東側
（島津創業記念館前）
電話 075-223-3456
- ・会費：5千円

会員の寄稿文

皆既日食と黄山の旅に参加して 萩原孝一

46年ぶりと言う日本での皆既日食に、加熱しそ



うな国内での観測を、隣の中国に移したグループに参加しました。結果的には日本では雨のため観測できず船舶のみ成功でした。企画は中国の杭州で観測したあと世界遺産の黄山を観光する6日間

（7月20日から7月25日）のツアーで14名でした。このグループは京都の高校の現役・OBで地学・天文学の専門の先生やその関係者で、私も所属している京都府山岳連盟に関係した先生の誘いを受け場違いなメンバーに参加しました。もう何回も皆既日食を経験された先生もいて、話を聞き初めての皆既日食の写真撮影と体験をしたい、黄山では出来れば岩峰の松と雲海そして朝日・夕日の撮影をしたいと参加を決めました。

何回も学習や準備をして出発し、関空～上海からマイクロバスで杭州市街から離れた大きなホテルに入りました。21日は暑くよい天気ホテル内に観測場所を確保した後、西湖などを観光しましたが予報では天気が下り坂で、雨の心配もあって、祈る気持ちで22日の観測日を迎えました。当日は曇りで時々雲を通して太陽も見えて観測準

備をして、GPSで正確に場所を決めたり、標準時を確認して待ったが、やはり薄雲での皆既日食になり、ダイヤモンドリングやコロナも何とか観られました。ホテルの敷地内なので暗くなると外灯やプールの照明が自動点灯して真っ暗にならずに残念だったが、航空機の点滅灯や星も観られて観測は何とか成功でした。私も一眼レフのデジカメで撮影したが、雲による激しい光量の変化で、何十枚のうち数枚が何とか撮れていたが60点ぐらいで大変難しかったです。そして全神経を集中して荘厳な天体ショーを見上げ、周囲の景観を観て、また周囲のどよめきを聞き、あと何秒の声のあと、ダイヤモンドリングで終わり、そのあと太陽は雲に隠れました、短くもありません長くも感じました。やはり写真撮影は難しく専門家に任せて、天体現象に集中すべきだと感じました。そのあと近くの銭塘江でこの頃発生する、大逆流が見られるとの情報で、大勢見物者のいた六和塔近くの銭塘江大橋で待ったが観られませんでした。

午後マイクロバスで約4時間走り安徽省黄山のホテルに着き、翌23日から山頂一泊で入山し黄山観光になりました。黄山は大小無数の岩峰などの峰々からなり、その中心である黄山風景区には、72の峰があり中でも蓮花峰(1864m)光明頂(1841m)天都峰(1810m)の三大主峰は特に

絶景として讃えられています。岩壁に生える奇松にも岩峰にも乗り岩にも色々な名前が付けられ、これに雲海が加われば水墨画の世界になります。中国でも人気の観光地で、ロープウェイも山中の石段ばかりの道にも観光客で溢れていて、良いが



イントの撮影は順番待ちでした。曇り空で雲海もなく、黄山の一部分だけが奇岩・奇松そして岩峰の展望など日本では観られない景色には満足でした。夕方から雨になり写真撮影に一番期待していた夕日や朝日が見られず残念でしたが、日程の決まった旅行にはよくあることです。下山し近くの約400年前「明」時代の古い町並みが残る「屯溪老街」を散策観光して、杭州を經由して上海から帰国しました。

小さなペン立て（私の石物語①） 福田弘秋

何回かにわたり石にまつわる話をお許し願いたい。

自宅の机に古い小さなペン立てが置いてある。厚さ1cm、手のひらほどの大きさでラフな三角形をした艶のあるこげ茶色の石板に金属のペン差しがついた、シンプルな構造である。（添付写真参照）私にとってはこのペン立てに懐かしい思い出があり、その来歴についてちょっとお話したい。

話は20年以上前の1980年代後半に遡るが、故人となられた元本田技研工業会長の杉浦英男さんが所用で堀場製作所を訪問され、当時の堀場会長、大浦社長と面会されることとなり私が東京から京都まで案内同行する役を仰せつかり新幹線の車中で貴重な話を聞かせて頂き感激

した場面を昨日の事のように思い出す。

当時杉浦さんは、本田技研工業を辞められ、経済同友会の外交部長として日米間に横たわっていた自動車貿易摩擦問題に取り組んでおられ、テレビ番組にも経済界を代表して度々出演されていたことをよく憶えている。一度テレビに出演するとあちこちから出演依頼があり断るのに困っていると話されていた。車中の雑談のなかで、たまたま石談義におよび以下の展開となった次第である。

本田技研工業の創業社長である本田宗一郎氏がミシガン工科大学から名誉工学博士号を授与されその授与式の随員として杉浦さんが同行された。

授与品の中にペン立てがあったが、これを杉浦さんが本田宗一郎さんから随員への謝礼として拝

領されたもので、このペン立てこそ冒頭に紹介した小さなペン立てなのである。

そんなに石が好きなら、君にあげる！ 僕が持つより君が持つ方がよからうとの事で私へ回ってきたと云う歴史を持つのである。

ある日、本田技研工業からの呼び出しがあり、杉浦さんの書面を添えたこのペン立てを頂き感激に震えたものである。しかし今はその書面が行方不明で価値半減のため「何でも鑑定団」へ出せなくなり極めて残念に思っている。

さてペン立てに戻ろう！ 石板の素材に注目したい。写真では見にくいですが表面を観察するとこげ茶色の石基に赤銅鉱若しくは自然銅と思える艶のある暗赤色の斑点が斑雲のように認められる。もしかしたら、これは銅鉱石をスライスして作られた物ではないかとの見立てをつけた。

ペン立ての裏面を見ると「Kingstone mine Keweenaw County Michigan」とのラベルがあるではないか、そこでミシガン州について調査したところアッパー半島で1840年代初期に銅と鉄鉱石の大きな鉱脈が発見され1860年代には全米銅産出量の90%を占めるほどになり1965年まで本格操業が続き現在でも小さな鉱山が細々と採掘を続けているようである。最盛期にはカリフォルニアのゴールド・ラッシュを上回るほどの活況を地域にもたらすと伝えられている。当時の

鉱石積出港はカッパーハーバーとしてその名を現在に残している。

やはりこのペン立ての素材は由緒ある地元産の銅鉱石を利用したものだった。



思い出のペン立て

なお余談となるが往時の精彩は無くなったもののミシガン州と云えばデトロイトの自動車産業である、私の勝手な推測ではあるがアッパー半島産出の銅、鉄とピッツバーグやクリーブランドの製鉄や各種工業製品、アパラチア山脈の石炭と五大湖の水運、が元になりデトロイトに自動車産業が興り発展したのではないかと思っている。このような来歴を持つ小さなペン立ては38年間の私の現役時代の思い出としてこれからも大切にしていきたい。

OB会連絡

—第13期新入会員との懇談会を開催—

平成21年11月18日（水）正午、本社22会議室にて、OB会新規入会者の森山晶成さん、井上純一さん、村瀬潤さん三人と幹事の小谷、川越とで一緒に昼食をとりながら、OB会の目的と今後の活動等について説明をしました。この懇談会は、先々期から始めたもので、入会直後の方々にOB会をよりよく理解をして頂き、諸活動に参加してもらおうとの趣旨で実施するものです。実際懇談してみるとそれぞれの事情とお考えがよく分かり、今後の運営にも大変有意義な機会となりました。参加して頂いた方々に感謝いたします。



ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

－2009年HORIBAグループ10大ニュース－

一昨年の秋から昨秋までの一年間の出来ごとから本社関係47件、グループ会社関係15件、合計62件のニュースエントリーから、全員の投票により10大ニュースが選ばれました。

以下にご紹介します。OB会の皆さんも現在の堀場グループ活動のダイジェスト版として参考にしてください。

1位 びわこ工場竣工

2位 朽木FUN FOUSE 増築工事完成

2位 ホリバカレッジ開校

(FUN FOUSE増築に合わせ)

4位 堀場社長 仏レジオン・ドヌールを受賞

5位 堀場最高顧問 三年連続で紺綬褒章を受章

5位 企業ポスターが経済産業大臣賞を受賞

5位 製品でグッドデザイン賞を受賞9位 グループ報 『JOY&FUN』が誕生

8位 HTSがISO/IEC17025 認証取得

9位 グループ報 『JOY&FUN』が誕生

10位 浜口京子さんがHORIBA本社に!

－2009堀場雅夫賞授賞式 開催－

平成21年10月19日、京都府知事、京都市市長など多数の来賓のご臨席のもと、2009テーマ「半導体材料表面コンタミネーション計測」に対して、授賞式と講演会が行われ、次の方々を受賞されました。(JOY&FUN 11月号より)

・受賞者

ホルヘ ピソネロ氏 スペイン オビエド大学
桜井 健次氏 独立行政法人
物質・材料研究機構
大野 真也氏 横浜国立大学
大学院 工学研究院

・特別賞 受賞者

国村 伸祐氏 京都大学
大学院 工学研究科

編集後記

本会報27号の発行が約一カ月遅れました。これは昨秋の年次総会の開催日が一カ月遅れだったので、スライドしたというわけではありません。しかし新年に発行するのもいいかなとも思っております。堀場グループ10大ニュース(JOY&FUN 12月号より)などは、今の会社を理解するために良い情報となったのではないかと考えています。

さて、今14期は、何とんでもOB会活動への会員の参加率向上をテーマに、年次総会でも全員で討議して頂き心強いスタートとなりました。またクラブ活動、ボランティア活動ともまだまだ不足ながら、前年比としては前向きに進んでいます。そのため会報の原稿とリニューアルしたホームページへのアップも増加し、その分皆さまへの話題が豊富になっています。現在のホームページは速報として機能していますが、会報は、皆さんの

寄稿によるじっくりとした考え方、報告等をもっと多く載せて行きたいと思っておりますので、どしどし寄稿をお願いします。

今、会社の業績も大変苦しく、最大の難関に差し掛かっていますが、来年からの新中長期計画で力強く再スタートする原点の年としてOB会も協力出来るところは協力して行きたいと思っております。特にホリバカレッジへの講師として、会社から伝統的な技術を伝授して欲しいと期待されています。皆さまの中で我こそはというひとは手を挙げて下さい。

幸い苦しい中にもOB会への物心両面の支援も継続していただいておりますので、我々もさらに活動の充実化を図って行きたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

(川越 幹)

* **堀場製作所OB会** *
* 〒601-8510 *
* 京都市南区吉祥院宮の東町2番地 *
* 株式会社 堀場製作所内 OB会室 *
* URL <http://www.h5.dion.ne.jp/~ob-hor> *
* E-mail horiba.ob@gmail.com *
